
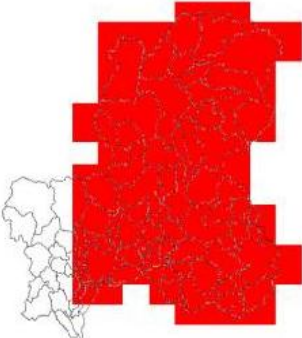


サクライソウ	<i>Petrosavia sakuraii</i> (Makino) J.J.Sm. ex Steenis	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 I B類)		ユリ科
選定理由	急速に個体数が減少していて、ごく近い将来絶滅が危惧される。	写真(高橋弘) 
形態の特徴	葉緑体を持たない白色の多年草。高さ5-20cm。葉は鱗片状。地中に根茎があり、地上に出現した茎には通常花がつく。外花被片の長さは約1.5mm、内花被片の長さは約7mm。心皮は最基部以外は互いに離れているが、背面の下部が花筒に合着する。	
生態的特徴	やや湿った林床に生える。ヒノキ林に多いが、広葉樹が混生するところにもある。花期は7月中旬から8月上旬。	
分布状況	中国と台湾にも分布する。日本では本州の中部地方と奄美大島に見られ、岐阜県では県北の1カ所と県南の2カ所に分布する。	
減少要因	森林の伐採と常緑広葉樹の優先する林への遷移の進行。	
保全対策	生育地における生育環境の保全。	
特記事項	岐阜県は日本の中で最も多くの個体群が存在していたが、現在は3ヶ所で確認されているに過ぎず、その内の1ヶ所は絶滅寸前である。	
参考文献		※生育地保全のため、広範囲の分布図を表示しています。

文責:高橋弘